



キャンパス・コラム

学生記者のすすめ

表紙にもうたってある通り、この『Hakumonちゅうおう』は、学生の視点で取材・編集している大学広報誌です。全国の大学が発行する数ある広報誌のなかで、学生自身が編集に携わっているのは、あまり聞いたことがありません。

学生の視点から編集していることが、「親しみやすい」「読みやすい」と、学生だけでなく教職員や一部のOBなどからも好評を得ています。

『Hakumonちゅうおう』を読んで、様々な刺激を受け、自分の学生生活を奮起させている学生もいるようです。

世の中では“最近の大学生は...”など、あまり良い表現をされないこともあります。この冊子に登場する学生はそのように揶揄される

学生とは無縁です。広報室に時折、顔を出してくれる学生記者たちももちろん無縁です。毎日忙しく学生生活を謳歌しながらも、その合間に様々な取材対象を探し、取材・編集をこなしているからです。

大学広報誌においては縁の下の力持ち的存在の学生記者には感謝とともに、エールを送りたい。

学生記者に興味を感じる学生がいたら、ぜひ、広報室の扉をたたいてください。学生記者の活動には、普通の学生生活では体験できない様々な出会いがあります。ニュースの現場にも出向き、社会の一コマを体験することもできます。

さらには取材力や文章力を鍛えることができるので、マスコミを目指す人はもちろん、卒論などに必ず役に立つことがあると思います。特に、1年生で興味がある学生がいたらぜひ広報室までおいで下さい！。

広報室 藤田 智子

編集室

スポーツの秋。青空の下で気持ちの良い汗をかくのもよし、声をかからしてゲーム観戦に没入するのもよしです。

そこで今号では、硬式野球部、水泳部、陸上競技部駅伝の3監督に集まっていただき、「目指せ大学日本一」をテーマに、林常任理事の司会でスポーツ振興について話し合っていたきました。

座談会の中でも指摘されていますが、本学スポーツを押し上げるには、「オール中央」の支援が欠かせません。熱い応援が選手を奮い立たせ、それが勝利につながれば、「オール中央」の一体感を醸し出すというものです。ところが残念なことがあります。

神宮球場や国立競技場、そして箱根に応援に行く度に感じるのは、現役中大生のあまりの少なさです。熱心に応援する人の殆どが本学OBで、学生の姿はチラホラ。

その理由はいろいろあるでしょう。東都大学野球の試合は平日であることや、神宮や国立に観戦に行くにも交通費がかかるといった事情があるのは確かです。ただ、「それでも」とあえて言いたいと思います。

卒業生と学生が世代を超えて肩を組む、中大の校歌や応援歌を歌うのも乙な味です。勝利すればなおさらです。中央大学応援歌の曲目は『あゝ中央の若き日に』です。団塊の世代の私が言うのも何ですが、「中大生のみなさん」「青春」しよっじやありませんか！」

(編集長 伊藤博)

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2009

秋季特別号

2009年(平成21年)10月20日発行 No.213

発行 中央大学広報室

〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumonちゅうおう』編集室

☎042-674-2048

印刷 泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03-3631-8141